

# 第 8 章 ワイヤレス LAN の使い方

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を本商品のアクセスポイントカードスロットに挿入し、専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を装着したパソコンをネットワーククライアントとして使用する場合に必要な事項について説明します。

## 8.1 IPMATE1600RD のワイヤレス設定

ダイヤルアップルータモード、ブロードバンドルータモードでご使用の場合、本商品のワイヤレス LAN に接続したパソコンからインターネットへ接続できます。

- 1 ブラウザを起動し、設定画面を表示します。
- 2 ご利用になる IPMATE1600RD の動作モードにあわせて、TOP 画面「ダイヤルアップルータモード」あるいは「ブロードバンドルータモード」をクリックします。それぞれのメニューから「ルータ」をクリックします。



## 8.1.1 ワイヤレス LAN 情報

別売の専用オプションカード（IPMATE1600RD-STC II）を装着した場合のワイヤレス LAN ポートの設定を行ないます。

### ☆Point

- 各設定項目の初期値、入力文字数につきましては「9.4 LAN ポート関連設定項目」(p.9-25)をご参照ください。

### 1 ルータ画面の「ワイヤレス LAN 情報」をクリックします。

キーの長さ	ASCII文字	16進数
40ビット	【例】 WLAN (5文字)	【例】 123456789A (10桁)
104ビット	【例】 NETWORK_KEY01 (13文字)	【例】 123456789ABCDEF0123456789A (26桁)

### ● ESSID

ESSIDは本商品のようにワイヤレスクライアントを収容するアクセスポイントを識別するためのネットワーク名です。同一のESSIDを持ったアクセスポイントとクライアントとが通信可能となります。複数のアクセスポイントが存在するときに、別のアクセスポイントへの接続を防ぐことができます。

ESSIDの初期設定は、「1600RDXXXXXX」です。

\* XXXXXX には、本商品の WAN 側 MAC アドレス下 6 桁が設定されます。

### 📖 参照

- 「1.3 各部の名前」の「本体右側面」(p.1-10)をご参照ください。

## ● WEP

WEPは高いセキュリティを確保するために、無線区間を暗号化して通信する機能です。正しい暗号キーを入手していないクライアントからの通信を防止することができます。本商品では40bit/104bitキーによる暗号化をサポートしており、設定できるキーの値は以下の通りです。

- 半角英数字 (a ~ z, 0 ~ 9)

### ☆Point

- WEPの暗号化通信を利用するには、通信を行なうすべてのワイヤレスLANクライアント、本商品と同じキーを登録しておく必要があります。
- WEP機能を使用すると、暗号化処理のため通信速度が若干低下します。

### 📖 参照

- WEPの入力に関する詳細は「付録7用語集」の「WEP」(p.付-21)をご参照ください。

## ● チャネル

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) と接続するため、1 ~ 14 チャネルを設定してください。近い場所で同一チャネルを使って別の通信をすると、干渉のため速度が低下します。チャネルを変えて、干渉を防止するようにしてください。複数のチャネルを使用する場合は、5つ以上離れたチャネルを設定してください。

## ● RTS 機能

同一のアクセスポイントを利用している複数のワイヤレスLANクライアント間でのデータの干渉の発生と、通信速度の低下を避けるための機能です。本機能ではあるクライアントによる送信要求 (RTS 信号) を受けたアクセスポイントが、他クライアントに送信延期要求 (CTS 信号) を送出することにより、クライアント間のデータ衝突を回避します。RTS 機能は送信パケットが設定したサイズを超えた場合のみ有効となるように設定できます。設定可能値は、0 ~ 3000 です。

### ☆Point

- RTS 機能を有効にした場合、より確実な通信ができますが、ネットワークの処理能力に影響を与え、通信速度が低下する可能性があります。

## ● フラグメンテーション機能

フラグメンテーション機能は、ワイヤレスネットワークのトラフィックが混雑している場合に、一度に送信するパケットサイズを小さく抑えることで効率化し、混雑を改善します。設定可能な値は、256 ~ 2346 です。

## ● MAC フィルタ

本商品に接続を許可するワイヤレス LAN クライアントの MAC アドレスを登録し、それ以外のアドレスの機器からのアクセスを制限する機能です。不正なネットワークへの侵入を防止することができます。

- 無効 : MAC アドレスフィルタを無効にします。
- 有効 : MAC アドレスフィルタを有効にします。

### 参照

- MAC アドレスフィルタ設定につきましては「[6.11 MAC アドレスフィルタ](#)」(p.6-44)をご参照ください。

- 2 必要な項目を設定し、「更新」をクリックすると、「更新しました」と表示されます。
- 3 TOP 画面で「設定反映」をクリックし、本商品の再起動後に設定は有効となります。

## 8.2 ワイヤレス LAN クライアントの設定

パソコンにステーションカードとして専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を組み込み、本商品のワイヤレス LAN に、ワイヤレスクライアントとして接続することができます。ステーションカードの設定は、専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) に付属の取扱説明書をご参照ください。

### ● SSID

本商品の初期値は 1600RDXXXXXX

↑ (WAN ポートの MAC アドレス下 6 桁)

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) の初期値は 1600RD に設定されます。

工場出荷時のままではワイヤレス LAN に接続できません。必ず IPMATE1600RD の ESSID と同じ値をステーションカードの SSID に設定してください。

### ● セキュリティ

ワイヤレス LAN のセキュリティのために WEP を使用する場合、ステーションカードにも同じ WEP 暗号キーを設定しなくてはなりません。

IPMATE1600RD-STC II 設定ユーティリティの「セキュリティ」画面で IPMATE1600RD の「WEP」(p.8-3) の設定と同じ暗号文字列、キーを設定してください。

### ● ワイヤレス LAN に接続するパソコンの設定

本商品の DHCP サーバ機能を利用してクライアントパソコンを LAN に接続する場合はパソコンのネットワーク設定を以下のようにします。

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「TCP/IP」の設定で「IP アドレスを自動的に取得する」、「DNS サーバアドレスを自動的に取得する」設定にしておいてください。

### 参照

- 詳しくは「第2章 パソコンのネットワーク設定」(p.2-1)をご参照ください。

## 《ワイヤレス LAN 機能使用時の設置について》

使用環境により正常に通信できない場合があります。

専用オプションカード（IPMATE1600RD-STC II）を搭載したパソコンと本商品は、下記に注意して設置してください。

- 通信可能な距離は屋外見通しで約 50m です。
- 周囲の環境（壁、家具など）、建物の構造によっては通信可能距離は短くなります。
- IPMATE1600RD は、可能な限りワイヤレスネットワークの中央に設置してください。
- IPMATE1600RD や専用オプションカード（IPMATE1600RD-STC II）を搭載したパソコンは、特に電子レンジ使用時に影響を受けやすいため、お近くでの使用は避けてください。近づけたりすると、他の機器の電源が入っているときには、正常に通信できなかったり、テレビやラジオの雑音や受信障害の原因になったりすることがあります（UHF や衛星放送の特定のチャンネルではテレビ画面が乱れることがあります）。
- IPMATE1600RD の近くに、AC アダプタや他の機器の電源コードを近づけないでください。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、IPMATE1600RD の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎるときは、正常に通信できないことがあります。